

1. 本園の教育目標

お友だち、保護者、教諭、地域の方という、子どもたちが関わる人々、そして自分自身を大切に思うキリスト教の愛の精神を保育の源泉とし、決まった型に押し込めるのではなく、一人ひとりとじっくりと接すること。また、進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感、自分以外の人に共感する力を持ち、社会生活における望ましい習慣や態度を身につけ、子どもたち一人ひとりが持っている発達する力を引き出す援助をねらいとする。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って、自己評価および、教諭同士が相互に評価することによって、幼稚園教諭としての資質を高める。また、子どもたちへの安全への配慮、家庭との連携を深める。

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	取組状況
<p>教諭の資質・指導能力、および保育内容の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の計画性について 	<p>・幼稚園教育要領、キリスト教保育誌を用いて、年、学期、月、週、日毎に保育案を作成し、指導も交えつつ協議を重ね、検討→実践→報告→反省という流れを持って、今の前にいる子どもたちに何を提供すべきかを考えながら行った。また、日々の報告会には園長も入り、実践の報告や振り返りの時に、指導も交えながら次回の計画の更なる練り直しをし、常により良いものとなる様、目指した。内容としては“幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿”と、更に「知・徳・体」に区分し、才児別に年間の目標をたて、それが達成できる様に細かく、ねらい(ねがい)を定めていった。</p> <p>また、行事(運動会や作品展、発表会等)を通して、保護者の方が、子どもたちの成長を感じて頂くことができるようにと、行事内容も綿密に話し合い、計画している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研修について 	<p>・各教諭が大阪府私立幼稚園連盟、大阪市私立幼稚園連合会、キリスト教保育連盟、各種民間業者の行う研修に参加するよう心掛けたが、今年はコロナ禍で多くの研修会が中止となり、思う様に受けることが困難であった。ただ、オンライン等に置き換えた形のものには積極的に参加し、報告書も作成し、他の教員も回覧することにより、情報、成果の共有化を図った。また、上記にも記載の通り、引き続き日々の反省会の中でも「今日の一コマ」とした“気づき”を、写真を通してディスカッションし、互いに研鑽を積む機会を設け、日頃の保育に活かせるよう促した。</p>

<p>・外部講師による研修</p>	<p>・絵画制作および運動に関しては外部の講師を招き、子どもたちに直接指導をしていただくことに併せて、教師に向けての園内研修会も行った。また、日頃の保育の中において疑問に思ったこと、困難に感じたことに対しての専門家からの指導もいただき、子どもたちへより適切な指導をする事が出来る様、心掛けた。</p>
<p>・園内研修</p>	<p>・上記の、教師に向けての絵画実技指導や、体育実技指導に加え、大阪市就学前教育カリキュラムを軸とした園内研修会も、園長主導の下、行っている。</p> <p>また、各々が改めて日頃の保育に対する目標（ねがい）を意識しつつ保育を行う事が出来る様、日々の反省会の中で「今日のコマ」として“気付き”を、写真を通してディスカッションし、互いに研鑽を積む機会を設け、日頃の保育に活用することが出来る様な“学び”の機会を、園内研修として引き続き設けた。次年度以降は、さらに内容を掘り下げつつ、続けていきたいと思う。</p>
<p>・子どもたちの安全への教育</p>	<p>・園バスのない当園では、徒歩もしくは自転車での送迎が主であるが、その登園・降園時の交通マナーが例年の課題となっている。近隣の方や、地域の方たちへの配慮が必要となるので、その事に関しても、子どもたちへの指導、また、保護者の方への注意喚起も行ってはいるが、今後も気を緩めず、引き続き指導・配慮を続ける必要がある。</p> <p>登園、降園の際の歩道の確保（長時間に渡る際の、園庭への駐輪の誘導）や、子どもの道路への飛び出しは減少したかと思われるが、この点も安心せず、引き続き注意喚起を行っていききたい。</p> <p>・また、防災への取り組み、ことに災害に備えた防災マニュアルの見直しをはかり、保護者の方との連携をより確実に取ることができるよう工夫し、「引き渡しカード」また、保護者以外の方が来られた際にも迅速に対応できるよう、「引き渡し可能者名簿」も作成し、有事に備える様にした。</p> <p>また、一斉送信連絡も有事の際に強いと言われているアプリケーション“LINE”仕様の様式を用いる事により安心・安全に運用出来る様にし、活用している。</p> <p>・毎年、火災による消防訓練や、地震による避難訓練も行ってはいるが、近年は大きな地震（大阪北部地震）もあり、南海トラフ地震もいつ何時起こるか判らない状況であるので、万一の際の指定避難所（上福島小学校）等への避難訓練や、予告なしの園内訓練もコロナが落ち着いたタイミングで是非行いたいと思っている。</p>

<p>・家庭との連携</p>	<p>・保育内容や子どもたちの園での様子を知っていただくために、インターネットによる会員限定の写真公開、販売を行っている。参観や公開行事では何うことのできない、普段の様子を知って頂くよい機会になっていると考えている。かつて問題のあった、一度の掲載枚数や掲載回数も見やすい様に工夫し、掲載日程の固定化も図った事で、安定して閲覧出来る様になった。</p> <p>また、今年もコロナにより、保護者の方々を園にお招き出来る機会がなかなか取れなかった為、子ども達の様子を動画撮影し、保護者の方へ無料配信して見て頂ける様に工夫した。</p> <p>・園日より、クラス日より、また、日々の活動内容をボードに書き、掲示する事で、保育内容を少しでも詳しく知っていただくことができる様に努めている。</p> <p>また、内外に向けて、当園の様子をより見やすいような形で発信出来るよう、新しくホームページの大規模リニューアルも行った。これからも、引き続きより良い形で皆さんと連携を取れる様、計画して行きたい。</p>
<p>・預かり保育の充実</p>	<p>・昨年同様、夏期預かり保育を行った。利用者は延べ384人であった。また通常保育時の預かり保育では平均して11人、全園児の18%が利用していた。</p> <p>これらは保護者の仕事や用事がある際に利用されることはもちろんだが、子どもたち同士の交流の場ともなり、預かり保育ならではのゆったりとした時間、異年齢児との関わりの中で、様々な遊びが発展していく光景を垣間見ることが出来るものであるが、今年もコロナ渦であった為、利用についても制限せざるを得なかった時期もあった事、また、利用自体を控えられた方もいらっしゃった事で、上記の様なパーセンテージとなった事が予想される。</p> <p>実際のニーズについては、次年度以降で測って行く必要があるかと思われる。</p>
<p>・環境設備の充実</p>	<p>・毎年の園庭樹木の剪定や消毒、ピアノ調律に加え、砂場の抗菌加工と砂補充も行った。また今年度は、園門扉のリニューアルとテラスの大規模改修、更には廊下手洗いの非接触型タイプへのリニューアルも行った。</p> <p>これらはコロナ対策としてもかなり有効であったと思う。今後も、より良い環境の充実を計って行きたいと思う。</p>

4. 学校評価の具体的な結果や計画の総合的な評価結果、および今後取り組むべき課題

・教職員は各クラスの実態の把握、そこから、保育案の作成、実施、反省と一連の流れの中で保育を行うことが出来る様心掛けた。その中で、園児一人一人に必要な援助を、研修や園内の協議で分かち合ったことも踏まえ、実践するよう努めた。教師が定めた目標に達しないこともあったが、それを受け止め、子どもたちと共にどのように成長していくことが出来るかを考え、次に活かすこ

とが出来る様、引き続き努力したい。

今年もコロナ禍で様々な事柄が制限され、行事やその他様々な事について、対応やその取り組みを更に熟考する必要もあり、かなり頭を悩ませられたが、中でも出来る限り“中止”という形にはせず、変更や工夫する事によって、子ども達の経験や育ちを阻害する事の無い様、努力した。また、当園が行ったコロナ感染症拡大防止対策の措置等についても、保護者の方々にご理解して頂けるよう文章にして説明させて頂き、大半の保護者の方にはご理解・ご協力して頂いていたが、個別に、疑問や質問を頂いた際にも、時間の許す限り直接お話しする機会を設けたり、お手紙を頂戴した際にはお手紙でも個別にお返事させて頂き、園として、できる限りの対応はさせて頂いたつもりであった。

今後も、おひとりお一人と寄り添いながら、誠心誠意、対応をして行きたいと思う。

・子どもたちの安全への教育に関しては、ここ数年来の大きな課題となっている。特に降園時の交通マナーに関して、近隣の方たちから毎年厳しいご意見をいただいていたので、保護者の方にもご理解・ご協力を頂き、子どもたちの安全のためにも、引き続きの意識付けをしていく必要があるかと思う。

・家庭との連携に関しては、保護者の方と協力しつつ、保育、行事も形を変えながらではあったが、行う事が出来る様に努めた。特にご協力をお願いする行事でも、保護者の方は子どもたちの豊かな成長のため、教師と協力し支えて下さった。

日頃は、登園・降園の短い時間の中ではあるが、家庭での様子や園での様子を少しずつでも伝え合い、今後もわかちあうことが出来れば…と思っている。特に今年もコロナ禍であった為、常に最新の情報を得ながら、当園における最善を尽くすべく、各方面とも連携を図り、無事過ごすことが出来た。保護者会としての活動も困難であることが予想された為、昨年同様、役員の数も減数し、コロナ禍での保護者の皆様の想いも受け止めながら、連携を図れるよう努めた。

ご迷惑をお掛けした事も多々あったかとは思いますが、役員会も例年の様に皆で集まる事が出来ない中でも、連携を取りつつ、様々な事柄に対してご理解・ご協力を頂いたことは本当に感謝であった。

・地域との連携に関しては、例年であれば金蘭会高等学校中学校との日頃の交流の結果、園児との交流会も持つ事が出来ており、旧バザー（新名称：あいき・いきいき・フェスタ）に於いてもよき交流の時を持っていたが、今年度もコロナ禍の為、開催を見送る事になったが、運動会開催場所問題（上福島小学校の建て替え工事によるグラウンドの使用不可期間）中に、今日の様な連携を取らせていただき、良好な関係性を築く事が出来た。これによって、今般危惧される災害時に於ける緊急避難場所のうち、高潮発生時の避難場所として、新たに連携を取らせていただく事も出来た。

また、次年度運動会の開催日の、雨天時予備日も別途設定しておいて頂けるようになった事は、非常に有難く、喜びである。

また“園だより”を近隣の小学校に送付し、少しでも当園の様子や予定を伝えられるよう工夫していたが、その効果が表れ、鷺洲小学校からは学校便りも送られる様になり、コロナ前は小学校へ年長児を連れて、図書室の見学や読み聞かせ等交流させて頂く機会も持っていたが、今年もコロナ禍で叶わなかった為、コロナ終息後は更に善き交流を持てる様、これからも地域の方々と寄り添い、互いに支え合って行きたいと思う。

・預かり保育 特に夏期預かり保育に関しては、目標を達成出来ていると考えている。

ただ昨年度、冬期・春期の預かり保育の実現と午前保育の撤廃を“要望書”としてお預かりした事や、園に通われる保護者の方々の環境の変化（就労状況等）もしっかり見つめつつ、職員が研鑽を積む機会の確保も踏まえ、引き続き検討して行きたいと思う。

・設備の充実に関しては、今後も理事会と連携を図りつつ、より良いものとして行きたい。

*次年度（7月頃）から、日々の保育の一コマをわかりやすく写真付きのもので掲示できるようなシステムを導入する予定。また、夏には保育室床のリニューアルも行う予定。

旧職員室（絵本のお部屋）の窓も、外からは中が見えにくい仕様に加工する予定である。

5. 学校関係者評価

*2022年4月27日(水) 10時30分～11時 2021年度 学校関係者評価委員会開催

特段の指摘事項もなく、本会は無事閉会した。

6. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

